

礼拝から宣教へ

ルカによる福音書二四章33〜43節

すぐさま二人は立ってエルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、……二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。(33〜35)

目が開かれ、復活された主イエスに気付いた二人の弟子は、着いたばかりのエマオから再びエルサレムへと戻っていききました。復活の主イエスに出会った大きな喜びが、旅の疲れを吹き飛ばしたのです。同時に、仲間の弟子たちを思う心が彼ら突き動かししました。エルサレムには主イエスの復活が信じられないために、今なお悲しみと絶望の中で夜を過ごしている仲間がいるのです。そのことを思ったとき、彼らはじっとしてはいられませんでした。一刻も早くこの喜びを伝えたい！と願ったのです。「もう悲しまなくなつた方がいい。恐れなくなつた方がいい。主イエスは甦られたのだから」と。ここに教会の姿があります。礼拝において主イエスの復活の知らせに新しく生かされた者たちは、自らを生かしたその喜びを他の人々に届けるために、それぞれの場合へと帰って行くのです。